

東北学院大学博物館
収蔵資料図録

コレ



履物の世界を歩く

キーワードは「かえる」

「おら用足しで仙台さ行く時や、河原町さへえるめえに(入る前に)、橋の手前でワラジばゾウリにとつけた(とりかえた)もんさ。」
(仙台市史編さん委員会、1998、102ページ)

これは『仙台市史 特別編6 民俗』に収録されている明治20年代生まれの方の言葉です。旅や労働の履物であるワラジから、町場を歩くためのゾウリに履き「かえる」という行動が、仙台の周辺地域から町場へ入るときの意識がかわる瞬間をあらわしています。

環境に合わせて「かえる」こともあります。たとえば冬の場面。一口に雪といってもサラサラな雪、かたい雪、深く積もった雪…など実はバリエーションが様々あります。私たちも知らず知らずのうちに色々な道に合わせて靴を履き「かえ」ているのかも？

本図録は、「かえる」をキーワードに様々な場面で用いられる履物資料を紹介しています。ぜひ、皆さまも一緒にページの中を歩きながら、めくるごとに履物を「かえる」気持ちでご覧ください。



① クツ

◦ 法量: 縦280mm × 幅100mm × 高さ170mm
◦ 材質: 皮・紐・ゴム?・金属

展示×学芸員課程×ゼミ活動

『KOREMITE』Vol.8は、博物館スタッフと沢山の学生たちが
コラボレーション!

まずは学芸員課程の学生たち。今回ご紹介する資料は、一部
を学芸員課程の授業のひとつである「博物館情報・メディア論」
を受講する大学3年生が資料カードを作成し、その資料の背景ま
でを調べて映像にまとめてくれました。詳細は図録の後半をぜひ
ご覧ください。

そして文学部歴史学科民俗学の金子ゼミ。ゼミで調査を続
けている、福島県ひの え またの檜枝岐村で収集された冬の履物を、今回
持ち寄ってくれました。本図録では、ゼミの学生たちが檜枝岐
村の暮らしの中で使い分けられてきた冬の履物を紹介してくれ
ています。

学芸員課程を履修する学生たちだけでなく、ゼミの活動とも
タッグを組み『KOREMITE』が作られるのは、実はVol.8にして
はじめての試みです。

資料についてはもちろん、大学の様々なところで日々奮闘する
学生たちの活動もお楽しみいただければ幸いです!

町へ履きかえる

家から一步外へ出るとき、何を履きますか？ここでは、かつて最も一般的な履物であった「ゾウリ」と「下駄」について紹介します。



② ゾウリ

- 法量：縦210mm×幅100mm×厚さ10mm
- 材質：藁



③ 竹皮ゾウリ

- 法量：縦220mm×幅100mm×厚さ10mm
- 材質：竹皮・布

ゾウリ（草履）は、稲わらや竹皮、藤皮などを用いて作られた履物です。台を編み、逆Y字形の鼻緒^{はな お}が付くのが特徴です。足がすっぽり入る長さのゾウリを「ゾウリ（草履）」あるいは「長草履」と呼びますが、長さが足の半分^{あしなか}くらいの短いものもあり、こちらは「足半（草履）」と呼びます。



④ 下駄

- 法量：縦240mm・幅106mm・厚さ95mm
- 材質：木・布・紐・鉄・金銅板

下駄^{げ た}は、木や竹で作られた台座に鼻緒を付けた履物です。性別や年齢、用途によって、さまざまな形の下駄が用いられました。江戸時代中期には庶民の履物として普及しましたが、農村部では日常の履物はゾウリで、下駄は特別なときの履物でした。



⑤ 竹皮ゾウリ

- 法量: 縦226mm × 幅90mm × 厚さ10mm
- 材質: 竹皮・布



⑥ ゾウリ

- 法量: 縦264mm × 幅90mm × 厚さ8mm
- 材質: 布・繊維



⑦ ワラゾウリ

- 法量: 縦216mm × 幅85mm × 厚さ14mm
- 材質: 藁・紐



⑧ 竹皮ゾウリ

- 法量: 縦240mm × 幅90mm × 厚さ10mm
- 材質: 竹皮・布



⑨ ワラゾウリ

- 法量: 縦220mm × 幅85mm × 厚さ10mm
- 材質: 藁・布・紐



⑩ 竹皮ゾウリ

- 法量: 縦230mm × 幅90mm × 厚さ10mm
- 材質: 藁・紐



⑪ ワラゾウリ

- 法量: 縦200mm × 幅85mm × 厚さ10mm
- 材質: 藁・紐

ほかにもいろいろ何を履こう？



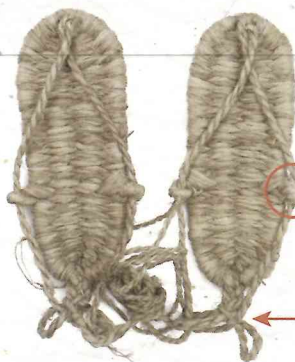
⑫ 下駄

- 法量: 縦236mm × 幅114mm × 厚さ48mm
- 材質: 木・布

👉 ゾウリとワラジ何が違う？



ゾウリ



ワラジ

乳(にゅう)

緒(お)

一見そっくりな形をしている「ゾウリ」と「ワラジ」ですが、用途が異なるため、よく見ると違う部分があります。「ゾウリ」は日常的に用いる履物であるため、シンプルな形をしています。一方「ワラジ」は旅など遠出をする際に履く履物です。そのため、脱げないように「緒」を長くし「乳」に通した後に、足首に結び付けるという工夫がされています。

履物にまつわることわざ

- 草鞋を履く：旅に出る
- 草鞋を脱ぐ：旅を終える
- 二足の草鞋を履く：両立しえないような二つの職業を同一人が兼ねること。
- 金の草鞋で尋ねる：根気よくあちこちを探し回ることのたとえ。
- 下駄を預ける：相手を信頼して、自分が関わっていること一切の処理を、すべて一任すること。
- 下駄を履かせる：価値や数量などを水増ししてごまかすこと
- 下駄と焼き味噌：形は似ていても、内容は全く違っていることのたとえ
- 下駄も仏も同じ木の切れ：尊卑の差はあってもそれは境遇によるものであって、その根本は同じであることのたとえ

田へ履きかえる

素足で田んぼに入ってしまうと、足が抜けにくくなってしまいます。ここでは、田んぼで作業を行う際の履物である「田下駄」について紹介します。



⑬ 田下駄

- 法量：縦256mm×
幅（足板112mm、
杵340mm）×
厚さ13mm
- 材質：木・藁・布・釘

⑭ 田下駄

- 法量：縦370mm×
幅（足板132mm、
杵330mm）×
厚さ12mm
- 材質：木・藁・布・釘



田下駄は、主に木で作られた台座に、鼻緒しゅうかを付けた履物です。田んぼに足が沈み込むのを防ぐ効果があり、代掻きや稲刈りを行う際に用いられていました。弥生時代中～後期の遺跡からも発見されており、長い歴史のある履物です。田下駄は1965年（昭和40年）頃まで一般的に使用されていたとされています。

冬に履きかえる

冬の寒い日に、靴に雪が入って冷たい思いをした、なんて経験はありませんか？ここで紹介する冬の履物は、どれも冬の暮らしを快適にする工夫がなされています。



⑮ ユキグツ

- 法量：縦250mm×幅90mm×高さ250mm
- 材質：藁

藁は保温性に富み、柔軟で通気性がよく、水にも強く氷の上で滑りにくいという利点があります。そのため冬の履物は、藁によって作られたものが多いのです。

オソフキは足のつま先を覆うもので、ワラジやゾウリと組み合わせて使用しました。当館が所蔵する勝平得之の版画にも、そのすがたが描かれています。



⑯ オソフキ

- 法量：縦300mm×幅110mm
- 材質：藁



勝平得之 『秋田風俗 冬の版画集 其二』
「雪べら」 当館所蔵

勝平得之の版画については
『KOREMITE』vol.3をチェック！



⑪7 フミダワラ

- 法量: 縦730mm×幅263mm
- 材質: 藁

豪雪地帯では、積もった雪を踏み固めて道を作るべく雪踏みと呼ばれる作業がありました。フミダワラはこの作業のために使われた履物です。



勝平得之『秋田風俗 冬の版画集 其一』
「踏たはら」 当館所蔵



⑪8 カンジキ

- 法量: 縦322mm×幅192mm
- 材質: 木・草・竹皮

カンジキは雪中で埋もれないために、藁の履物の下に付けて履く、木や竹を輪のように加工して作られた履物です。

体重を分散させることで、雪の上を歩きやすくしています。雪上でのほか、水田で利用した地域もあるようです。

雪道へ履きかえる

ー 福島県檜枝岐村の場合 ー

一年の半数近くが雪に覆われる、日本有数の豪雪地帯・檜枝岐村。歴史学科・金子ゼミでは、檜枝岐村と連携しながら、調査研究を進めています。東北一小さなこの村での、かつての雪の装いを紹介します。



①9 クツ／ワラグツ

- 法量: 縦270mm × 幅124mm × 厚さ126mm
- 材質: 藁



②0 フカグツ

- 法量: 縦272mm × 幅110mm × 厚さ274mm
- 材質: 藁

高冷地である檜枝岐は稲作ができないため、藁は隣村で購入する必要がありました。10km以上先の集落へ男性がワラヒキに出向き、入手した藁を女性が履物へ加工しました。

夏の履物であるアシナカやワラジは底部しかありませんが、雪の季節には足全体を覆う履物になります。ワラグツはもともと、男性たちの冬の山仕事用に使われました。のちには、子どもたちの冬の上履きとしても使われました。フカグツは足全体を覆う構造で、現在の長靴に近いカタチです。多く作ることではできませんでしたが、雪が入り込むのを大幅に軽減することができました。



②① カンジキ／ツメカンジキ

- 法量：縦246mm×幅180mm×厚さ45mm
- 材質：ミズノキ（輪）・ミズナラ（ツメ）

檜枝岐では、2種類のカンジキを
使いました。新雪の際には、カメカ
ンジキという大きな丸型のカンジキ
で、柔らかい雪に沈み込むのを防
ぎました。滑るような堅雪になると、
ツメのあるカンジキを利用しました。
かつては村の職人たちが製作して
いました。



②② カナアシ／ カナカンジキ

- 法量：縦57mm×
幅90mm×
厚さ60mm
- 材質：鉄



②③ カナアシ／ カナカンジキ

- 法量：縦102mm×
幅120mm×
厚さ25mm
- 材質：鉄



②④ カナアシ／ カナカンジキ

- 法量：縦144mm×
幅123mm×
厚さ72mm
- 材質：鉄・麻（紐）

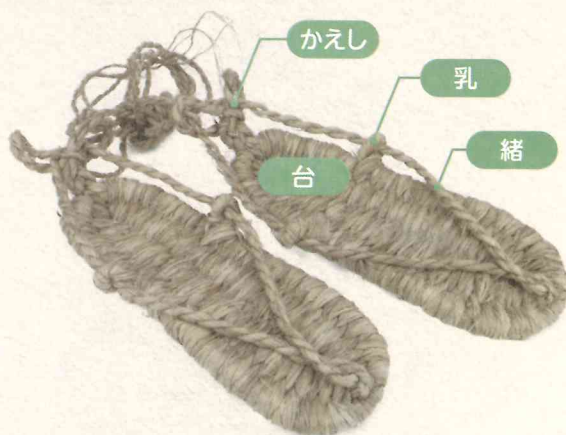
東北最高峰である燧ヶ岳^{ひうちがたけ}（2356m）をはじめとする高山が聳える檜枝岐^{そび}では、雪の山仕事は過酷なものでした。冬の履物を改良する努力は続けられ、ワラグツの裏に金属の滑り止めを使うようになります。新潟や南会津の鍛冶屋に作らせました。地下足袋が入ってくると、地下足袋に合わせられるように、輪をつけた改良がなされました。また紐も、麻紐からより丈夫なナイロン紐へと変わってゆきました。

ひもが
カラフルな
ナイロン製の
ものも



旅路に履きかえる

旅をするなら、たくさん歩く分、足への負担が少ないものが良いですね。人やものの往来に欠かせなかった履物が、このページで紹介するワラジです。人だけではなく、馬もワラジを履いていました。



②5 ワラジ(福島地方)

- 法量: 縦240mm × 幅95mm × 厚さ15mm
- 材質: 藁

足首をしっかり固定して

足を乗せる台に緒・乳・かえしがあり、後部に、足首に固定するための結び紐を付けた履物を草鞋と呼びます。旅や労働の時にはかれ、多くは農民が自分で作りました。

よそ者を防ぐ!?

よそから来る悪者や疫病を防ぐ威嚇として、村の境に大きなわらじを吊るす地域もあります。



馬もわらじを履きました

蹄鉄が普及する前は、馬もわらじを履きました。

新しいワラジに付け替えるのは一苦労するなど、実は不便な部分もあったとか…。

②6 馬ワラジ

- 法量: 縦240mm × 幅140mm × 高さ55mm
- 材質: 藁

裂いた布地を
編みこんだ
オシャレなもの



②7 ワラジ

- 法量: 縦225mm × 幅130mm × 高さ15mm
- 材質: 藁・布



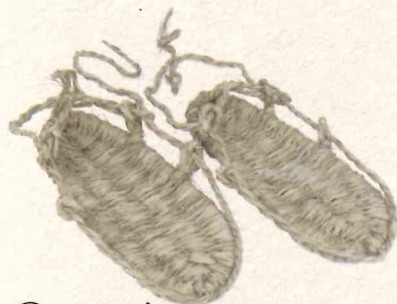
②8 ワラジ

- 法量: 縦240mm × 幅95mm × 高さ15mm
- 材質: 藁・布



②9 ワラジ

- 法量: 縦230mm × 幅110mm × 高さ12mm
- 材質: 藁



③0 ワラジ

- 法量: 縦230mm × 幅95mm × 高さ18mm
- 材質: 藁



③1 ワラジ

- 法量: 縦276mm × 幅110mm × 高さ15mm
- 材質: 藁



③2 ワラジ

- 法量: 縦250mm × 幅120mm × 高さ15mm
- 材質: 藁



③3 馬ワラジ

- 法量: 縦200mm × 幅160mm × 高さ20mm
- 材質: 藁

非日常に履きかえる

「新しい靴は午前中におろしなさい」という言葉があります。なぜ午後ではいけないのでしょうか。その答えのヒントを教えてくれるのが、非日常の場面で登場する履物です。ここでは、[お葬式のワラジ]と[信仰に関わるワラジ]を紹介します。



③4 葬式ワラジ

- 法量：縦220mm×幅（乳頭間）90mm
×厚さ10mm
- 材質：藁

【お葬式に関わる履物】

日常とは違う作法

お葬式を自宅で行っていた頃、人が亡くなると、弔われる人と参列者の履物として、新しいワラジが編まれます。

お葬式が始まるのは夕方です。そして棺を出すときは、家の中でワラジを履き、普段出入りする玄関ではなく、縁側からそのまま外へ出て、墓地へ向かいました。

午後に新しい靴を履いて外に出る＝お葬式を連想してしまうことから、日常では新しい履物は午前中のうちにおろすようにという言葉が生まれたのです。

死装束=旅の装束

お葬式のワラジであっても、形そのものは前ページ「旅路にはきかえる」で紹介されていたものとほとんど同じです。というのも、人は亡くなると「あの世」へ旅立つために旅人の装束を着せられました。

下の写真のワラジはゾウリの形をしています、地域の人たちが「葬式ワラジ」と呼んでいたのかもしれません。



③⑤ 葬式ワラジ

- 法量：縦220mm×幅140mm×高さ10mm
- 材質：藁

【信仰に関わる履きもの】

でわさんざん

「出羽三山ワラジ」…果たして？

こちらの資料、履物自体は、実はワラジではなくユキグツの形をしています。

「出羽三山」とは修験者しゅげんが中心となって信仰を集めた山形県にある山です。出羽三山で修行をする人たちは山伏の格好をし、地下足袋もしくは「八日ワラジ」と呼ばれる、乳が8つのワラジようかを履くようです。この資料は出羽三山のいつどんな所で使われたのでしょうか…。



③⑥ 出羽三山ワラジ

- 法量：縦250mm×幅110mm×厚さ75mm
- 材質：藁・紙

いつもと違う履き方で「非日常」の世界へ

履物づくりの手しごと

現在では、機械でつくるのが当たり前となった履物ですが、昔はひとつひとつ手作業でつくっていました。ここでは、その様子がわかる「ゲンベイ」と「ゲンベイ木型」を紹介します。



③⑦ ゲンベイ木型

- 法量：縦230mm × 幅（つま先72mm、かかと35mm） × 高さ60mm
- 材質：木

ゲンベイ木型は、南会津地方で生産されていたもので、その名のとおり、ゲンベイをつくるための木型です。現在はつくることのできる人が少なくなっており、貴重な民具の一つといえます。

当館所蔵のゲンベイ木型は、左足側の木型です。



③⑧ ゲンベイ

- 法量：縦250mm × 幅90mm × 高さ80mm
- 材質：藁・布

ゲンベイは、福島県で、比較的浅い雪のなかを歩く際に使われた履きものです。また、主に年配の方や子どもが使用していたようで、雪みちを歩くための安全な履物であったことがうかがえます。

同じような履物を新潟県東蒲原郡では「ゲンベグツ」と呼びます。



お楽しみ
ください!

ショート・ ムービーでみる はきもの展

学生たちの
努力の結晶!

博物館では学生が制作した
当館所蔵の「はきもの」資料を
紹介しています!

博物館情報・メディア論の授業では、博物館での「情報」の活用に関する考え方や技法、およびこれを扱う際の人権への配慮の問題などについて学んでいます。

本学では、これらの内容を実践的に学ぶ方法として、学内にあるあまり知られていない資料を紹介する「ショート・ムービー」の作成実習をおこなっています。

KOREMITE vol.8 掲載一覧

掲載 No.	資料名称	法量(mm/縦×横×厚さ) ※原則記入する部分のみが対象	採 集 地	材 質	受入年月日	資料番号	備 考
1	クツ	280×100×170		皮・紐・ゴム?・金属		0519	東北学院大学博物館蔵
2	ゾウリ	210×100×10		藁		0482	東北学院大学博物館蔵
3	竹皮ゾウリ	220×100×10	山形県鶴岡市or 福島県会津高田町	竹皮・布	昭和43年(1968年)	0468	東北学院大学博物館蔵
4	下駄	240×106×95		木・布・紐・鉄・ 金銅板		0542	東北学院大学博物館蔵
5	竹皮ゾウリ	226×90×10		竹皮・布	昭和43年(1968年) 7月	0476	東北学院大学博物館蔵
6	ゾウリ	264×90×8		布・繊維		1045	東北学院大学博物館蔵
7	フラゾウリ	216×85×14		藁・紐	昭和43年(1968年) 7月	0473	東北学院大学博物館蔵
8	竹皮ゾウリ	240×90×10	鶴岡市大東町	竹皮・布	昭和43年(1968年) 7月	1046	東北学院大学博物館蔵
9	フラゾウリ	220×85×10	山形県羽黒山	藁・布・紐		0412	東北学院大学博物館蔵
10	竹皮ゾウリ	230×90×10		藁・紐	昭和43年(1968年) 7月	0470	東北学院大学博物館蔵
11	フラゾウリ	200×85×10		藁・紐	昭和43年(1968年) 7月	0479	東北学院大学博物館蔵
12	下駄	236×114×48				0512	東北学院大学博物館蔵
13	田下駄	236×(足板112、 杵340)×13		木・藁・布・釘		0440	東北学院大学博物館蔵
14	田下駄	370×(足板132、 杵330)×12		木・藁・布・釘		0443	東北学院大学博物館蔵
15	ユキグツ	250×90×250		藁		0415	東北学院大学博物館蔵
16	オソフキ	300×110	福島市渡利字前山	藁	昭和43年(1968年) 7月	0467	東北学院大学博物館蔵
17	フミダワラ	730(持ち手含む) ×263	大字塩江	藁	昭和43年(1968年) 7月	0702	東北学院大学博物館蔵
18	カンジキ	322×192	只見町字明和	木・草・竹皮		1026	東北学院大学博物館蔵
19	クツノワラグツ	270×124×126	福島県檜枝岐村	藁	令和3年(2021年)	2021- D-2	文学部歴史学科 金子ゼミ蔵
20	フカグツ	272×110×274	福島県檜枝岐村	藁	令和3年(2021年)	2021- D-3	文学部歴史学科 金子ゼミ蔵
21	カンジキノ ツメカンジキ	246×180×45	福島県檜枝岐村	ミズノキ(輪)・ ミズナラ(ツメ)	令和3年(2021年)	2021- C-32	文学部歴史学科 金子ゼミ蔵
22	カナアシノ カナカンジキ	57×90×60	福島県檜枝岐村	鉄	令和3年(2021年)	2021- B-22-14	文学部歴史学科 金子ゼミ蔵
23	カナアシノ カナカンジキ	102×120×25	福島県檜枝岐村	鉄	令和3年(2021年)	2021- B-22-11	文学部歴史学科 金子ゼミ蔵
24	カナアシノ カナカンジキ	144×123×72	福島県檜枝岐村	鉄・麻(紐)	令和3年(2021年)	2021- C-35	文学部歴史学科 金子ゼミ蔵
25	フラジ(福島地方)	240×95×15	福島市渡利字前山	藁	昭和43年(1968年) 7月	0475	東北学院大学博物館蔵
26	馬フラジ	240×140×55	福島県渡利字前山	藁	昭和43年(1968年) 7月	0471	東北学院大学博物館蔵
27	フラジ	225×130×15	山形県鶴岡市外山	藁・布	昭和43年(1968年) 7月	0472	東北学院大学博物館蔵
28	フラジ	240×95×15		藁・布	昭和43年(1968年) 7月	0477	東北学院大学博物館蔵
29	フラジ	230×110×12		藁		1047	東北学院大学博物館蔵
30	フラジ	230×95×18		藁	昭和43年(1968年) 7月	0480	東北学院大学博物館蔵
31	フラジ	276×110×15		藁		0478	東北学院大学博物館蔵
32	フラジ	250×120×15		藁	昭和43年(1968年) 7月	0474	東北学院大学博物館蔵
33	馬フラジ	200×160×20	田島町塩江	藁	昭和47年(1972年) 10月	0408	東北学院大学博物館蔵
34	葬式フラジ	220×90×10	福島県相馬郡原金 墓池	藁	昭和45年(1970年) 11月15日	0143	東北学院大学博物館蔵
35	葬式フラジ	220×140×10			昭和43年(1968年) 9月22日	0481	東北学院大学博物館蔵
36	出羽三山フラジ	250×110×75		藁・紙	昭和57年(1982年) 12月	0507	東北学院大学博物館蔵
37	ゲンベイ木型	230×(つま先72、 かかと35)×60		木		0409	東北学院大学博物館蔵
38	ゲンベイ	250×90×80	田島町大字金井沢	藁・布	昭和48年(1973年) 2月	0411	東北学院大学博物館蔵



■ 参 考

- 犬塚幹士 2000 「雪靴」 福田アジオ・新谷尚紀・湯川洋司・神田より子・中込睦子・渡邊欣雄編 『日本民俗大辞典 下』 吉川弘文館
- 岩井宏實監修・工藤員功編 2017 『絵引 民具の事典(普及版)』河出書房新社
- 岩崎敏夫編 「東北民俗資料集-巫女の仏おろし・ほか-」萬葉堂
- 佐々木長生 2011 「田下駄の名称をめぐって-猪苗代湖周辺のナンバを中心に-」『神奈川大学 国際常民文化研究機構 年報』第2号
- 潮田鉄雄 1973 『ものと人間の文化史8 はきもの』法政大学出版局
- 潮田鉄雄 2000 「櫛」 福田アジオ・新谷尚紀・湯川洋司・神田より子・中込睦子・渡邊欣雄編『日本民俗大辞典 上』吉川弘文館
- 潮田鉄雄 2000 「下駄」 福田アジオ・新谷尚紀・湯川洋司・神田より子・中込睦子・渡邊欣雄編『日本民俗大辞典 上』吉川弘文館
- 潮田鉄雄 2000 「草履」 福田アジオ・新谷尚紀・湯川洋司・神田より子・中込睦子・渡邊欣雄編 『日本民俗大辞典 上』吉川弘文館
- 潮田鉄雄 2000 「田下駄」 福田アジオ・新谷尚紀・湯川洋司・神田より子・中込睦子・渡邊欣雄編『日本民俗大辞典 下』吉川弘文館
- 潮田鉄雄 2000 「履物」 福田アジオ・新谷尚紀・湯川洋司・神田より子・中込睦子・渡邊欣雄編『日本民俗大辞典 下』吉川弘文館
- 潮田鉄雄 2000 「草鞋」 福田アジオ・新谷尚紀・湯川洋司・神田より子・中込睦子・渡邊欣雄編『日本民俗大辞典 下』吉川弘文館
- 仙台市 1998 『仙台市史 特別編6 民俗』 仙台市史編さん委員会
- 東北学院大学博物館編 2017 『KOREMITE』Vol.3 東北学院大学博物館
- 野津哲子 1968 「古代服装研究(第2報)-履物の研究-」『島根女子短期大学紀要』第6号
- 野津哲子 1969 「古代服装研究(第3報)-履物の研究(2)-」『島根女子短期大学紀要』第7号
- 野津哲子 1970 「古代服装研究(第4報)-履物の研究(3)-」『島根女子短期大学紀要』第8号
- 守谷英一 2022 「ワラグツの「民芸品」化の過程に関する一考察-山形県西置郡東根村 浅立のワラグツを事例として-」『東北芸術工科大学 紀要』第29号

■ 執筆者一覧(五十音順)

- 金澤 日本：7～8p
金子 祥之：9～10p
熊谷 式胡：7～8p
熊谷龍之介：3～6p
木暮 遥奈：15～16p
永田 英明：15～16p
真柄 侑：1～2p、11～14p
増藤 雄大：9～10p
横山 舞：3～5p

■ 編 集

熊谷龍之介・真柄 侑・横山 舞

■ 監 修

金子 祥之・佐藤 敏幸・永田 英明・七海 雅人



＼ 東北学院大学博物館 収蔵資料図録 ／



編集・発行：東北学院大学博物館

発行日：2023年3月13日（初版）

〒980-8511 宮城県仙台市青葉区土樋一丁目3-1

TEL：022-264-6920

<https://www.ipc.tohoku-gakuin.ac.jp/tgum/>



@tgu_museum

